



前只見高等学校  
校長

伊藤 勝宏

「全力疾走」のその先には…

私は、令和4年1月28日午後3時過ぎ、選抜高等学校野球大会事務局から「21世紀代表校として甲子園大会に出場していただけますか？」と電話がかかってきたとき、思わずガッツポーズをしてみました。これにより只見高校は、第94回選抜高等学校野球大会に21世紀枠で出場することになりました。

只見の地は、今年の冬も3メートルを超える豪雪となり、新型コロナウイルスの感染拡大も絡んで、甲子園に向かうための練習や準備は大変厳しい状況でした。しかし、多くの皆様からのご支援と、福島県並びに県教育委員会からのバックアップもあり、また地域の皆様からは熱い声援を受けて、何とか野球部を甲子園に送り出すことができました。

令和4年3月22日(火)大会4日目の第三試合、本校野球部は岐阜県の大垣日本大学高等学校と対戦しました。試合当日は、午前中まで雨だったために試合開始が遅れ、午後6時過ぎのプレイボールでした。結果は1対6で敗れましたが、随所に、雪深い会津の野球部らしい粘り強い守備と、本校野球部の合言葉である「全力疾走」で走り抜け、試合中盤には選手一人一人がつかないでつないでタイムリーヒットで1点を取ることができました。甲子園に只見の名を刻むことができた本場に涙したのを覚えています。選手は、試合を終始笑顔で終えることができ、まさに夢の甲子園であったと思っています。寒風吹きすさぶ中ででの試合ではありませんでしたが、只見グランドで埋め尽くされたアルプスタンドの熱気は、兵庫県立東灘高等学校と兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校のプラスチックバンド部員による熱い友情応援も重なり、選手と応援団が一体となって甲子園での夢の2時間を過ごすことができたと考えています。この結果、選手の戦う姿だけでなく、スタンドでの全校応援の様子も含めて、只見高校のモットーである「小さな学校の大きな可能性への挑戦」を、甲子園という舞舞台で十二分に体現することができたと思っています。

現在、本校野球部は、この夏の大会で再び甲子園に出場するという次の目標達成のために厳しい練習に励んでいます。今回の甲子園大会出場では、只見という奥会津の「地域の歓喜にとどまらず、新潟福島豪雨災害で被災した只見線が、今秋、10年ぶりに全線再開することも重なって、会津地域全体で大きな反響を巻き起こしました。これも一重に、本校野球部をご支援くださいました只見町様、福島県高等学校野球連盟様をはじめとする関係各位、そして、野球部のために貴重なご寄付をくださいました多くの皆様のお蔭であると思っています。皆様のご支援に深く感謝を申し上げますとともに、今後も、本校と本校野球部のため、更なるご協力を賜りますようお願い申し上げます、甲子園大会出場の御礼の挨拶といたします。



只見町長

渡部 勇夫

勇気と感動をありがとう

第94回選抜高等学校野球大会に「21世紀枠」出場決定の吉報を聴き、町では防災行政無線によって全町民にお知らせしました。

決定の瞬間、私は職員と共にパソコンの画面を見ながら、何度も「只見って言ったよな。」と確認しあいました。本当に心の底から喜びが溢れた感動の瞬間でした。

選手・マネージャーの皆さんの頑張りとともに、長年にわたりご指導された長谷川監督並びに関係者の皆様にご深い敬意を表する次第であります。

豪雪地域であることや部員数が少ないことを困難な理由とするのではなく、その環境を常とし、「全力疾走」や「小さな学校の大きな可能性への挑戦」が現実となった瞬間でした。

甲子園の試合も雨による順延や前試合の延長戦によって、経験したことのない初めてのナイター戦になりました。

私も皆さんと共にスタンドから応援しましたが、只見高校の校歌が流れたときは、目頭が熱くなりました。

選手たちは、強豪校相手に堂々と爽やかな素晴らしいプレーを随所に見せてくれました。そして、選手全員を起用された監督の采配にも感銘いたしました。

町民の皆様や只見町ご出身の方々をはじめ全国の皆様から本当に温かいご支援をいただき、驚きと共に言葉に表しようのない感謝の気持ちでいっぱいです。

本当に本当にありがとうございます。

今年、役所広司さん主演の映画「峠」が全国上映されました。これは長岡藩家老であった河井継之助が只見町塩沢で没するまでが描かれています。

映画で使用された「盡己(じんき)」という書を小泉監督から「只見町にこそこの書は相応しい。」という言葉添えて贈呈いただきました。

この意味するところは、まさに己を尽くすであり、事に臨むにあたって臆せず驕らずひた向きの姿勢は、只見高校の野球部の姿勢と同じものを私は感じました。

この度の只見高校野球部の事績と姿勢を只見町は、まちづくりの引き継いでいかなければならないと思います。

更に、只見高校を友情応援していただいた兵庫県立東灘高等学校並びに神戸鈴蘭台高等学校プラスチックバンド部の皆様にご感謝申し上げます。

また、大会出場準備に当たっては初めての経験ばかりで戸惑うこともあったことと思いますが、選手のためにご尽力頂いた事務局である学校関係者の皆様にも感謝申し上げます。

結びに多大なご尽力を賜った福島県高等学校野球連盟の皆様にも感謝申し上げます。また、只見高校を、ご支援、ご声援いただいたすべての皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。



只見高等学校  
校長

伊藤 靖隆

「歩み」をつなぐ

このたび、第九十四回選抜高等学校野球大会出場記念誌を発刊するにあたり、本校野球部にご支援ご声援を賜りましたすべてのみなさまに心より御礼と感謝を申し上げます。

昨年の秋季東北地区高等学校野球福島県大会で本校野球部は、春夏秋を通じて初めてベスト8に入るといふ快挙を成し遂げたことにより、豪雪地帯にあり冬場は厳しい練習環境にあることや新潟・福島豪雨で被災し、困難を乗り越えて野球に打ち込んできた点などが評価されたことが、二十世紀枠での出場に結びつきました。これは、これまでに築き上げてきた「逆境に負けない真摯な取組」という本校の歩みが「センバツ出場」という形で全国的に評価されたことでもあり、すべての学校関係者や只見町の住民のみなさまにとって大変励みとなる誉れをいただく機会となりました。

今年度の人事異動により四月に校長として赴任して以来、「センバツ出場」の喜びや誇りが、決して「過性にとどまることなく、本校や地域の振興を牽引していること」を肌で感じ新鮮な毎日を送っています。

甲子園では大舞台に臆することなく、正々堂々と持てる力を発揮し、強豪の大垣日大相手に最後まで戦い抜くことができました。また、負けはしたものの、悲願の2点をもぎ取ることができ、試合の随所で、しっかりと「全力疾走」し、ベストゲームをやり遂げられたことは、会津地方をはじめ県内の球児に良い刺激になったものと確信しております。

試合から三ヶ月を過ぎた現在においても、甲子園のそうした活躍について様々な方々より「勇気と元気、希望を与えるプレーだった」とねぎらいのお言葉をかけていただいております。

今後もさらなる学校の発展や地域振興の充実に向けて、野球部の活動をはじめ、すべての教育活動において、しっかりと前を向いて確かな歩みを積み重ねて参りたい所存であります。

みなさまにおかれましては、本誌をご高覧いただき、二〇二三年春のセンバツの感動を再度温めくだされば幸いです。重ねて本校野球部はもとより、本校の教育活動に對しまして、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



只見高等学校  
甲子園出場  
後援会会長・同窓会会長

目黒 敏男

夢・元気感動ありがとう

只見高校は、昭和39年に独立して、現在の只見高校となりました小さな高校です。

第94回選抜高等学校野球大会の出場は、学校関係者、先輩方、町民の方々の大きな夢でもあり、喜びであったと思います。これも高野連関係者の協力があつたから出場できたと思います。本当にありがとうございます。

令和4年1月28日、21世紀枠出場決定の吉報を只見高等学校校長室で、学校関係者、報道関係者と待機していました。出場決定の一報が入ると、待機していた関係者達の大きな拍手がおこりました。高校野球球児の夢である決定は、本当に夢の様な気持ちになりました。出場が決定したとはいえ、まだコロナ禍がおさまらない中、誰も経験した事のない不安ばかりで、校長先生、事務長、同窓会、雪椿会、PTA、野球部保護者会、野球部OB会、町長さんをはじめ、多くの町民の方々の協力をいただきました。

甲子園出場決定後は、町内はじめ、全国各地から支援をいただき本当にありがとうございます。甲子園大会までの練習は、土の上で練習させたいと、片道何時間もかけ、監督自らがマイクロスピーカーのハンドルを握って運転して、雪があまり降らない浜通り地域に遠征し、練習に励んできました。本当にご苦労様でした。

入場行進もコロナ禍の影響で、1日目の3試合の6校だけで行われました。他のチームは、ビデオで紹介され、只見高校は、3mもある雪の壁の中での入場行進でした。野球部15人という少数と共々、全国の人たちに感動を与えてくれたと思います。試合は、最初の日程よりも遅れ、今まで経験した事のないナイターでの試合になりました。対戦相手の岐阜県代表の大垣日大に1対6で残念ながら敗れましたが、初出場とは思われない程、堂々と試合をしてきました。

最後まで野球部のモットーである「全力疾走」常に笑顔で全員で試合をしてくださいました。応援も町民の方々、東京只見会をはじめ、各地から多くの人たちが甲子園球場に足を運んでいただきました。また、神戸市の東灘高校と神戸鈴蘭台高校の友情応援、甲子園に行けなかった町民の方も季の郷湯らでパブリックビューイングで応援してもらいました。試合後も各地の人たちから暖かいメッセージをいただきました。

最後に、只見高校野球部が甲子園に出場するに際し、各方面から多大なる御支援を賜り誠にありがとうございます。これからも只見高校発展のための御支援、御指導よろしく申し上げます。